

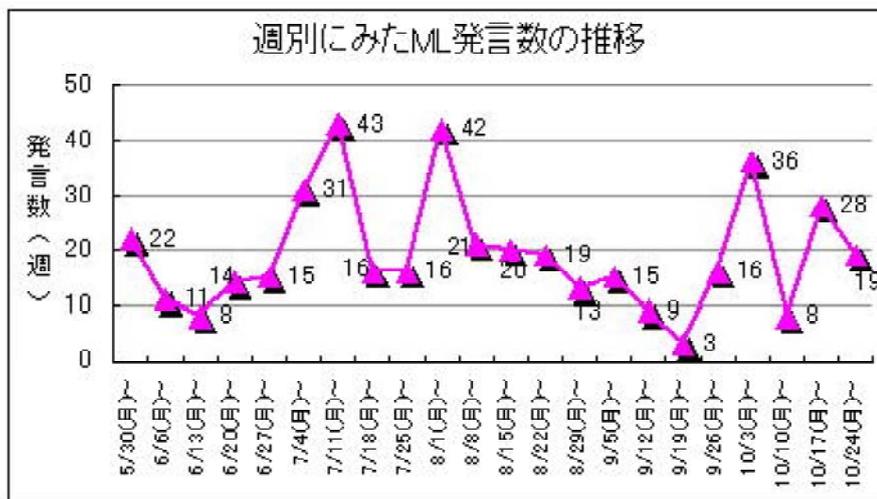
行歯会だより（第6号）

2005年11月（毎月発行）

（行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会）

●メーリングリストの発言数の推移

行歯会のメーリングリストは、5月末に立ち上がり、以来、活発な情報・意見交換が行われています。立ち上げから、ほぼ5ヶ月が経ちましたので、発言を月別・週別に分析してみました。



▽1日あたりの発言数は約4件

10月28日(金)現在(正午前)の段階での全発言数は425です。

メーリングリストの立ち上げが5月31日ですから、経過した日数から土・日曜日を引いた日数で全発言数を割ると、約4件となります。

●理事のひとり言（その2）：秋の夜長のmono-logue

仙台市宮城野区保健福祉センター管理課（歯科衛生士）

高橋 明子



東北は熟爛が美味しい季節となり、あと一ヶ月もすれば初雪の便りが届く頃となりました。

前号の佐々木先生より、リレー連載のバトンを受けました東北・甲信越ブロックの高橋です。

前回のテーマは“学会”でしたが、先月口腔衛生学会に参加させていただき、行歯会でもご活躍の諸先生方のご発表やご意見を大変興味深く拝聴させていただきました。

さて、行歯会MLでは、歯科保健や公衆衛生事業についての情報交換やブレインストーミングが活発に行われる一方で、欲しい情報が絶妙なタイミングでブリーフケースにUPされる等、事務局の先生方のきめ細やかな配慮と皆様の熱意により、順調に運営されております。思わず膝を打ちたくなるようなご意見に頷き、鋭い指摘に感服しつつも、密かに我が身を省みて、ぬるい仕事をしてきてしまった・・・と反省することしきりです。

私は、卒後6年間の臨床の現場を経て、保健所、本庁と勤務し、今日に至っておりますが、特に保健所において歯科保健業務を担当していた頃は、歯科医師や複数の同職種の方が周りにいる環境（本市には、歯科医師8名、歯科衛生士19名が常勤でおります）に安心し、地域保健に身を置く歯科衛生士として何がしたいのか（何ができるのか）、果たすべき役割は・・・等々深く考えもせずに日常性に埋没し、ルーチン業務を漫然とこなしていたように思います。

【付記】

仙台市の歯科保健関係資料

<http://www.city.sendai.jp/kenkou/kenkouzoushin/ikiiki/manual/index.html>

保育所（園）・幼稚園、学校などで行う、子どもの歯の健康づくり活動に役立つ実践マニュアルを仙台市歯と口の健康づくりネットワーク会議が作成しました。

「子どもの歯と口の基本知識」「子どもの生活習慣支援マニュアル」「フッ化物応用マニュアル」の三部作となっております。

現在は私も含め、歯科保健以外の業務に従事する歯科衛生士は6名おり、病院等の立入検査等の医務業務、人口動態や保健衛生等の統計業務、高齢者支援業務や庶務業務、情報政策関連業務等その業務は多岐に及んでおります。

各種事業の推進のためには、多職種によるチームアプローチが重要と言われております。

他の業務を経験してみると、地域保健（公衆衛生）の「専門家集団」の中の歯科衛生士という職種のスタンス等が客観的に見えてきて、「歯科衛生士の今後」について思案することがあります。

皆さんはどのようにお考えでしょうか。

これまで、全国の皆様から日々発信される真挚なメッセージにより、大きなパワーや刺激をいただいて、プロフェッショナルとしての発言や行動に責任を持たなければいけないこと、当然それは正確で選び抜かれなくてはいけないし、磨かれていかなければいけないものだと思わせていただきました。更に「何でもやれる行政マン（創刊号：石上会長のお言葉）」に少しでも近づくため、「いっちゃん、目覚めてみませんか！」という気持ちで現在の業務と専門職としての研鑽を重ねていきたいと思っております。こんな私ですので、どのくらいお役に立てるかわかりませんが、より多くの方が参加しやすい会となるよう努めていきたいと思っております。今後とも宜しく願いいたします。

シリーズ「厚生統計」紹介③ 住民(国民)の歯科保健状況を示す統計について

青山 旬(栃木県立衛生福祉大学校歯科技術学部)

住民の歯科保健状況を示すものとして、口腔に関する自覚症状、通院の状況、歯の保有状況に関する状況を取り上げてみましょう。

自覚症状

国民生活基礎調査は毎年実施されているが、3年ごとに大規模調査が行われ、その中に健康に関する調査があります(健康票)。そこに、自覚症状として歯科の情報が最新の平成16年調査はまだ概要しか公表されていないため、平成13年の結果を表1に示しました。「歯が痛い」のほうが若い年齢階級で率が増加し、「歯ぐきのはれ・出血」が遅れて増加しますが、いずれも55～64歳をピークに減少します。「かみにくい」は年齢が高くなるとともに増加し続けています。

通院状況

通院状況についても国民生活基礎調査でみることができます。この調査は住民を対象としているため、通院しない者の統計も把握できることが、通院している者の統計である患者調査との大きな相違点です。表2に国民生活基礎調査の通院状況の年齢階級別の上位5位の疾患(男性、女性は行歯会だより4号で紹介)を、表3に患者調査による推計患者数を示しました。表2では全年齢(総数)でもむし歯と歯周疾患がそれぞれ第4位と第5位と多くの方が通院する疾患であることが示されています。患者調査は1日調査ですので、ある1日に日本全国で受診する患者数はう蝕と歯周疾患で変わらない状況(いずれも26万人)となっています。

歯の本数

アンケートによる歯の本数(自己申告)が盛り込まれている調査は保健福祉動向調査(歯科保健)でしたが、現在は国民健康・栄養調査に替わりました。この項目は毎年の調査となっています。平成15年の結果が発表されたので、表4に示しました。ただし、年齢階級の取り方が異なっているので、簡単な比較ができません。健康日本21の歯の健康の参考資料として同じ年齢階級の結果表が示されるのを期待しています。その他、歯間清掃補助用具の情報が確認できますが、調査法の違いか、減少を示す結果になっています(8号につづく)。

表1 性・年齢階級別にみた症状別有訴者率(人口千対)

年齢	有訴者率(全体)	歯が痛い	歯ぐきのはれ・出血	かみにくい
総数	322.5	23.4	23.5	24.4
0～4歳	283.9	4.7	0.9	0.1
5～14	211.3	14.3	4.8	2.0
15～24	206.4	19.8	8.9	3.1
25～34	252.1	25.0	16.1	5.0
35～44	288.1	24.7	24.0	8.8
45～54	321.2	25.2	35.9	21.7
55～64	383.6	31.4	40.6	40.6
65～74	475.1	29.6	35.6	61.4
75～84	544.8	21.5	26.6	85.4
85歳以上	546.9	18.1	20.1	101.4

平成13年国民生活基礎調査(健康票)

表2 年齢階級別にみた通院者率の上位5傷病(人口千対)・男性(年齢階級は抜粋)

年齢階級	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
総数	高血圧症 76.3	腰痛症 36.8	糖尿病 35.9	ムシ歯 35.9	歯肉炎・歯周疾患 22.2
0～4歳	急性鼻咽頭炎 49	アトピー性皮膚炎 44.8	喘息 30.6	中耳炎 24.3	ムシ歯 23
5～14	アレルギー性鼻炎 46.1	ムシ歯 44.9	喘息 32	アトピー性皮膚炎 24.1	急性鼻咽頭炎 12.2
15～24	アトピー性皮膚炎 20.4	ムシ歯 19.5	アレルギー性鼻炎 11.5	骨折以外のけが・やけど 9.5	腰痛症 9.1
25～34	ムシ歯 34.9	腰痛症 17.3	アトピー性皮膚炎 12	精神病 7.7	アレルギー性鼻炎 7.3
35～44	ムシ歯 35.9	腰痛症 25.4	高血圧症 18	肩こり症 13.4	歯肉炎・歯周疾患 13.3
45～54	高血圧症 68.2	糖尿病 36.2	ムシ歯 36.1	腰痛症 34.5	高脂血症 30.2
55～64	高血圧症 150.6	糖尿病 72.7	腰痛症 51.3	歯肉炎・歯周疾患 47.7	高脂血症 44.7

平成16年国民生活基礎調査(健康票)

表3 推計患者数、性・年齢階級×傷病小分類×施設の種別・外来(歯科診療所) 単位:千人

	総数	う蝕	歯肉炎及び歯周疾患	その他の歯及び歯の支持組織の障害
総数	1147.9	260.2	260	336.6
0歳	0.1	-	-	0
1～4	20	13.7	0.5	3.9
5～9	49.6	26.9	2.5	14.3
10～14	23.8	13.1	1.9	3.4
15～19	27.3	10.4	3.4	9.4
20～24	46.9	14.2	11.3	17.1
25～29	62.1	22.7	13.7	18.8
30～34	73.2	21.1	17.1	27.1
35～39	61	15	15.3	22.8
40～44	64.7	15	15.9	22.6
45～49	73.8	15	18.5	25.7
50～54	109.7	20.9	30.6	32.2
55～59	110.3	19.7	28.8	33.6
60～64	109.9	15.8	30.2	29.6
65～69	114.4	17.8	30	29.6
70～74	90.5	8.4	18.6	24.9
75～79	61.9	6.4	12.5	12.8
80～84	28.7	2.4	4.9	5.4
85歳以上	17.6	1.5	4.1	3.1

平成14年患者調査

表4 性・年齢階級別アンケートによる20歯以上の保有割合(%)

	保健福祉動向調査(歯科保健)		国民健康・栄養調査	
男	平成5年	平成11年	男	平成15年
15-24	97.6	98.1	15-19	97.5
25-34	92.7	98.1	20-29	94.1
35-44	84.2	91.7	30-39	92.0
45-54	73.5	80.9	40-49	86.4
55-64	50.3	64.4	50-59	66.8
65-74	23.9	37.3	60-69	51.3
75-84	12.3	16.9	70-	22.5
85-	6.2	10.6		
女	平成5年	平成11年	女	平成15年
15-24	97.6	98.8	15-19	97.6
25-34	93.2	97.9	20-29	96.0
35-44	81.0	92.3	30-39	95.0
45-54	66.9	81.3	40-49	87.7
55-64	43.8	60.8	50-59	68.8
65-74	17.4	35.3	60-69	48.6
75-84	7.7	14.6	70-	21.6
85-	2.4	6.1		

●ニュース

・平成 15 年度 国民健康栄養調査の報告

青山先生の報告にも出ていましたし、すでに御存じの方も多いかもかもしれませんが、平成 15 年度 国民健康栄養調査標記調査では、生活習慣調査のなかに歯科に関する質問が 2 問あり、その結果が、厚労省のホームページに掲載されています (<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa2-01/index.html>)。

歯科に関する調査結果は「第 4 部 生活習慣調査の結果」中の「第 56 表 歯間部清掃用器具の使用状況 (性・年齢階級別)」と「第 57 表 歯の状態 (性・年齢階級別)」に結果表が掲載されています (199 頁)。

下記 URL からダウンロード可能です。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyouchosa2-01/pdf/06a.pdf>

・8020 推進財団

下記の報告書、冊子が出ました。

- ・小冊子「口臭」
- ・病棟における口腔ケアの事例紹介 (寺岡加代ほか、全 194 頁)
- ・「第 5 回フォーラム 8020 (命を守る 8020 ～あきらめないで食べること～) 報告書

●お知らせ

▽全国歯科保健大会関連

・全国歯科保健推進研修会

日時：H17.11.11(金) 13:00-17:00

会場：新潟コンベンションセンター (朱鷺メッセ)

内容：

講演 「要介護者の口腔ケア (行政・医療機関・病院等の連携を通じて)」 (仮題)

大内 章嗣 (新潟大学大学院医歯学総合研究科教授)

「介護予防における口腔機能向上」 (仮題)

北原 稔 (神奈川県茅ヶ崎保健所保健福祉事務所保健福祉課長)

グループ討議「介護予防における口腔機能向上を図るために」

特記事項： 本研修会終了後、各都道府県歯科医師会関係者と行政関係者の懇親会を予定 (朱鷺メッセ最上階)。

・フッ素洗口研修会

日時：H17.11.11(金) 15:00-16:30

会場：新潟コンベンションセンター (朱鷺メッセ)

主催：新潟県歯科医師会、新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野、子どもの歯を守る会

内容：講演「地域歯科保健におけるフッ素の役割」

葭原 明弘 (新潟大学大学院医歯学総合研究科助教授)

実践報告「学校保健活動におけるフッ素洗口の実施と成果について」

鈴木 裕子 (弥彦村立弥彦小学校養護教諭)

ディスカッション

その他…フッ素洗口のビデオ放映、フッ素洗口の関連資料の販売

費用：無料

参加申し込み並びに連絡先：

新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野

TEL 025-227-2858 FAX 025-227-0807

・第26回全国歯科保健大会

日時 平成 17 年 11 月 12 日 (土) 12:30-17:00

会場 新潟コンベンションセンター (朱鷺メッセ)

内容：

①特別講演 「歯と無重力」毛利 衛 (宇宙飛行士)

②シンポジウム 「みんなで取り組む歯科保健」

基調講演 花田 信弘 (国立保健医療科学院・口腔保健部長)

シンポジスト 葭原 明弘 (子供の歯を守る会実行委員長、新潟大学大学院医歯学総合研究科助教授)
深井 稜博 (深井保健科学研究所所長)
大久保満男 (静岡県歯科医師会会長)

コーディネーター 石上 和男 (新潟県福祉保健部健康対策課長)

詳細 <http://www.jda.or.jp/sikahokn.htm> <http://www.ha-niigata.jp/zenho/info/index.html>

▽その他

・国立保健医療科学院：臨床研修指導歯科医（保健所）養成コース

期日：H16.2.23(木)午後～2.24(金)午後

場所：国立保健医療科学院

内容：次年度から開始される歯科医師臨床研修における保健所での研修の内容について、その指導にあたる歯科医師に対して、指導に必要な知識および指導技術を習得し、有用な研修カリキュラムの立案を行う。

特記：後日、関係機関に案内文書を送付する予定

・日本口腔衛生学会関東地方会 健康情報セミナー

期日：H17.12.11(日) 10:00～13:00

会場：東京医科歯科大学歯学部第1講義室

内容（講演）：

「最近の地域保健の動向について」

小椋正之（厚労省健康局総務課地域保健室・地域保健推進専門官）

「栄養所要量から食事摂取基準へー重視されるエビデンスと確率論ー」

横山徹爾（国立保健医療科学院技術評価部・主任研究官）

参加費：

関東地方会会員は無料、非会員は 500 円

●書籍紹介(不定期連載)

国立大学歯学部看護部長会議 編「歯科看護ハンドブック」(医学書院、¥3,780、144頁)

<http://www.igaku-shoin.co.jp/prd/00096/0009699.html>

1995年出版と比較的古い本ですが、全国の国立大学歯学部病院の看護部長さん方が分担執筆された本で、看護職の立場で書かれた本として大いに参考になります。

「ライフサイクル各期の口腔保健」の章では、発達上の課題と問題点、保健指導が、「口腔機能障害と看護、部位別症状と看護」の章では、アセスメントポイント、ケアプラン、ケアの実際が解説されています。

この他、外来・病棟における看護計画について等々、診療科・疾患別に基礎から臨床までポイントが実によく整理されています。

看護職の方に口腔ケアを理解していただく入門・応用の好著だと思います

(市野浩司、熊本県御船保健所)

「質問コーナー」新設の御連絡

メーリングリストでの発言は活発に行われていますが、日頃の疑問をメーリングリストで質問してみたいけれども気が引けて悶々としている方も多いのではないかと思います。

そのような方のために「行歯会だより」では、「質問コーナー」を新設することにしました。手順は次に示すとおりです。

1. 質問がある方は、下記の「質問受け付け専用アドレス」宛に、質問の内容を明記して御連絡ください。その際、必ず「記名（所属も明記）」をお願いいたします（匿名の質問は受けかねます）。
gyoushi_kai_q@yahoo.co.jp
2. その後、質問を然るべき方（アドバイザー等）に回答していただくように手配します。ただし、質問者の名前は必ず伏せるようにします。
3. 回答ができましたら、「行歯会だより」の「質問コーナー」で回答者が答えるようにします。その際、質問者は「匿名」とします。また、質問者への個別の回答は行いません。

以上ですが、早ければ次号から掲載したいと思いますので、奮って御連絡ください。